

寄贈資料

2019

- 2. 1 小林洋一様:『坂本國雄の歩み』他1点
- 3.26 馬奈木友道様:西南学院高校の制帽
- 4.12 加藤高穂様:『アサ便り』他11点
- 6.17 斎藤剛毅様:『バプテスト教会の起源と問題』他4点
- 6.25 山縣和彦様:HATO-POP-PO のレコード 他1点
- 9. 9 笠由樹子様:中学部第7回卒業記念写真
- 9.11 伊原幹治様:『田中遵聖とアサ会事件』
- 9.24 伊藤健一様:川島ゼミ同窓会「川島会」-50年の歩みー

2019.1.1~12.31

- 9.27 村上隆太様:絵画「糸島の風景A」他4点
- 10.17 山縣和彦様:MISIAのLPレコード 他3点
- 11.16 坂東資朗様:河野貞幹サイン入り旧新約聖書
- 11.19 青柳信五様:有田忠郎資料3箱
- 11.26 踊真一郎様:久留米キリスト教会、教会組織50周年記念誌 他1点
- 12. 6 黒江量二様:グリークラブ創立100周年記念フェスティバルDVD・プログラム等

活動記録

2019

- 1. 8 複写:大学卒業アルバム
- 1. 9 会議:第211回百年史監修合同委員会
- 1.11 会議:第212回百年史監修合同委員会
- 1.12 協力:大学宣伝企画研究会の50周年祝賀会
- 1.15 会議:第213回百年史監修合同委員会
- 1.18 会議:第214回百年史監修合同委員会
- 2. 8 貸出:ANNUAL REPORT of the FOREIGN MISSION BORD
- 2.20 複写:『西南新聞』36点
- 3. 1 展示:『「百年史」編纂で発見された史実』(-5/18)
- 3.11 複写:画像「ヘレン・ケラーとトムソン」
- 3.12 複写:『西南新聞』55号
- 3.22 複写:事務部内報『窓』25号
- 4.17 複写:「西新校地選定当時の画像
- 4.17 複写:『西南新聞』97号、122号
- 4.25 会議:2019年度第1回資料センター運営委員会
- 5.17 複写:キリスト教資料展示室関係資料
- 5.22 閲覧:新聞スクラップブック
- 6. 4 貸出:波多野培根伝(1)~(4)
- 6. 7 協力:「文化のダイナミズム」講義
- 6.13 複写:『西南学院大学広報』113号
- 6.17 会議:第1回学院史講義検討PT会議
- 6.21 座談会:『西南学院百年史』編纂を振り返る
- 6.26 協力:西南コミュニティカレッジ講義
- 7.10 貸出:「川島会」関係資料
- 7.16 刊行:「西南学院史資料センター」パンフレット第2版
- 7.18 貸出:「修学旅行及遠足ニ関する記録」
- 7.19 会議:第2回学院史講義検討PT会議
- 7.25 複写:西南学院の航空写真、他2点
- 7.25 貸出:大学卒業アルバム 2点
- 8. 1 照会:新共同訳についての経緯
- 8. 8 来訪:中村学園大学学術情報部
- 8.21 閲覧:「グリークラブ」ファイル(1)~(6)(~8/22)

2019.1.1~12.31

- 8.21 複写:『千舟会会報』1号、2号
- 8.23 複写:大学卒業アルバム
- 8.26 貸出:波多野培根遺稿集、他1点
- 8.28 複写:西南学院校歌楽譜
- 8.28 貸出:『日本バプテスト連盟史』
- 9. 2 展示:西南学院グリークラブ百年の歩み展(-10/19、共催)
- 9. 4 協力:筑肥線西新駅画像3点
- 9. 4 取材協力:FBS福岡放送「めんたいワイド」
- 9. 4 校正:「CAMPUS GUIDE」「学生手帳」
- 9.18 会議:第3回学院史講義検討PT会議
- 9.24 複写:大学干隈キャンパスの画像
- 10. 3 協力:「西南学院の歴史」(西南小3年)
- 10.11 会議:第4回学院史講義検討PT会議
- 10.16 会議:全国大学史資料協議会2019年度総会・全国研究会(-10/18)
- 10.25 会議:2019年度第2回資料センター運営委員会
- 10.25 貸出:ANNUAL REPORT of the FOREIGN MISSION BORD
- 11. 6 複写:日本バプテスト連盟 総会・理事会資料(1970~1974)
- 11. 6 校正:『卒業記念アルバム 2020』
- 11. 6 刊行:西南学院史資料センター紀要特別号
- 11. 8 会議:第5回学院史講義検討PT会議
- 11. 8 貸出:『摩太福音書』の解説書
- 11.26 閲覧:『波多野培根伝』他関係資料24点
- 11.26 複写:『西南学院大学広報』53号 他4点
- 11.28 複写:西福戦応援合戦風景、他応援団関係画像9点
- 12. 6 会議:第6回学院史講義検討PT会議
- 12. 9 複写:西新商店街風景
- 12.10 複写:百道の海岸
- 12.13 照会:大学テニスコートについて
- 12.13 貸出:THE MISSION AND THE CONVENTION
- 12.18 貸出:学院創立100周年記念式典等DVD
- 12.27 複写:西新商店街風景3点

資料センターのご利用について

西南学院の歴史に関する資料の閲覧をご希望の方は、事前に当センターへご連絡ください。資料の閲覧は、当センター内とし、原則として館外貸出はいたしません。また、資料を写真撮影・複写される場合には、許可が必要です。論文・図書・新聞・雑誌などに掲載(転載)または引用される場合にも許可が必要です。

TEL:092-823-3920 e-mail: sward@seinan-gu.ac.jp

学院史資料センター運営委員会

- | | |
|-------------------------------|---|
| 委員長: G.W.バークレー(学院史資料センター長、院長) | 資料センター事務局 |
| 委員: 宮崎 克則(大学博物館長) | 世戸口 尚英・高松 千博・大石 里紗 |
| 北垣 徹(大学図書館長) | |
| 金丸 英子(神学部教授) | |
| 瓜生 和也(中学校・高等学校教諭) | |
| 高口 沙耶香(小学校教諭) | 編集後記 |
| 樋崎 賢(舞鶴幼稚園主任教諭) | この通信も今回で第3号となった。さらに充実した内容を目指して取組みたい。『百年史』の編纂も終わり、本格的に所蔵資料の整理を行わなければならない。(世) |
| 土田 珠紀(早緑子供の園主任保育士) | |
| 平山 崇(総合企画部長) | |
| 松崎 尚志(資料センター事務室長) | |

平日(月~金) 9:00~17:00(最終入室16:30)
夏季休暇[8/10~8/16]、キリスト降誕祭[12/25]、年末年始[12/28~1/5]を除く

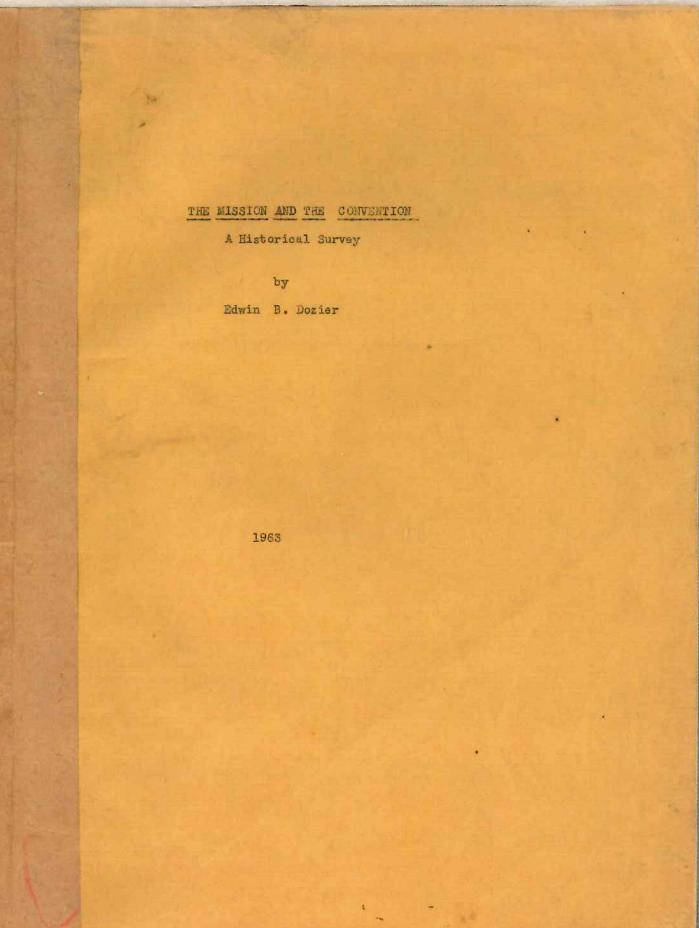
西南学院史資料センター通信



一粒小麦

Seinan Gakuin Archives Newsletter

2020
NO. 3



Contents

2020年企画展	2
「西南学院を支えた79人の宣教師たち」	
西南学院史資料センター紀要	2
『西南学院百年史』刊行記念特別号を発刊	
「グリークラブ百年の歩み展」開催	2
資料センター所蔵資料の紹介(2)	3
E.B.ドージャーによるレポート—THE MISSION AND THE CONVENTION	
寄贈資料・活動記録	4
資料センターのご利用について	4



「西南学院を支えた79人の宣教師たち」

2004年、西南学院は、宣教師が不在となる時代を迎えた。その背景には、米国南部バプテストの信仰宣言が根本主義へ舵を切り替えたことが挙げられる。この企画展では、これまでの宣教師の働きを顕彰とともに、同バプテスト連盟の変質を紹介する。



第1章 宣教師による伝道と教育活動

1889年、J.W.マッコーラムとJ.A.ブランソンが、米国南部バプテスト連盟派遣宣教師として初めて横浜に上陸し、日本の地を踏んだ。その後、同バプテスト連盟は、主に西日本地域で活動し、九州でも各地で宣教活動に携わっていくことになる。

◀ 明治参拾七年以降事業報告控簿



第2章 西南学院の発展と宣教師の貢献

西南学院における宣教師たちは、グリークラブの音楽活動をはじめESSの英語劇やスピーチコンテストなど、学生に異文化を紹介した。また、M.B.ドージャーは、学校教育に振興があったとして西日本文化賞を受賞した。

◀ 旧1号館を増築した際の礎石



第3章 宣教師不在の西南学院

2000年、米国南部バプテスト連盟は、いわゆる信仰宣言を改訂した。その内容は、根本主義の影響を色濃く反映したものであった。同バプテスト連盟は、この信仰宣言に賛同する署名を各宣教師に強要した。それを拒むことは、宣教師の解任を意味し、その結果、西南学院に宣教師は不在となつた。

◀ 『キリスト新聞』に掲載されたハンキンス夫妻の公的書簡

『西南学院史資料センター紀要』特別号を発刊

資料センターでは、昨年11月6日に『西南学院史資料センター紀要—西南学院百年史刊行記念特別号』を発行した。

同紀要は、『西南学院百年史』に特化した編集で、百年史編纂委員会と監修委員会のメンバーによる座談会では、オーラルヒストリーの功罪やDVDという新しい媒体への対応への言及などが語られている。また、事務局からは、百年史編纂の経緯や新たに判明した史実の執筆など、次の年史刊行に参考になる記事を掲載している。



contents

- ・座談会『西南学院百年史』編纂を振り返る
- ・百年史編纂の経緯
- ・『西南学院百年史』編纂の過程で判明した史実 他

「西南学院グリークラブ百年の歩み展」開催

グリークラブは、創部100周年にあたる2019年に同部のOBであり、合唱界において日本を代表する指揮者として知られている福永陽一郎(1926-1990)を顕彰しようと同氏の研究会を立ち上げた。

その研究結果の一環として、昨年の9月2日から10月19日まで、資料センターの企画展示室で「西南学院グリークラブ百年の歩み展」(主催:同部および同部OB会、協力:資料センター)を開催した。福永氏の直筆の楽譜や著書だけでなく、同部のコンクールや定期演奏会、海外演奏旅行の様子などを展示して好評を得た。



資料センター所蔵資料の紹介〈2〉

THE MISSION AND THE CONVENTION A Historical Survey by Edwin B.Dozier

「伝道と連盟—E.B.ドージャーによる歴史的調査」とタイトルのついたこのレポートは、米国南部バプテスト連盟(以下「連盟」)が日本に派遣した宣教師で構成される在日宣教団(以下「宣教団」)がエド温 B.ドージャーに依頼したものである。1963年の宣教団秋季ミッションナリーミーティングの会議資料として作成されており、日本における宣教団の活動を時系列に記している。

◇レポートの背景

ミッションナリーミーティングとは、日本各地で活動する宣教師が集まって宣教団としての方針や伝道にあたっての検討事項などを協議する会議で、同レポートが資料として提出された会議は、1963年11月13日から18日まで静岡県の天城山荘で行われた。同会議は、約1週間後に行われる日本バプテスト連盟の定期理事会に対する事前打ち合わせで、宣教団としての意見を提示するための会議であった。実際、「日本バプテスト連盟昭和三十八年度理事会報告書」には、次のような記録があり、W.M.ギャロットは、日本バプテスト連盟の理事会に宣教団の要望を申し出ている。

宣教団より申出の件

ギャロット師より宣教団特別会議について報告後、宣教団の申出を述べられる。

下記の共同研究に参加協力して欲しい

- ①日本の伝道を推進し、連盟の活動を強化する上に、宣教師としてどのようにしたら最もよい働きができるか
- ②連盟及び連盟所属教会の完全独立を推進し、同時に福音伝道を躍進させるためには、ボードの財源はどのように運用されるべきか

新年度の理事会で、取り上げて研究方法を講じてもらう

『昭和三十八年度第四回理事会報告書』 (1963年11月、日本バプテスト連盟、14p)

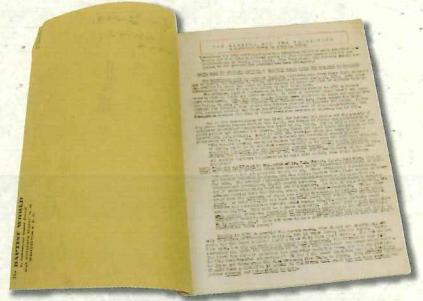
では、「伝道と連盟—E.B.ドージャーによる歴史的調査」は、どのような内容だったのだろうか。その前に、このレポートの背景や時代を見てみたい。

執筆者E.B.ドージャーは、1963年当時55歳であったが、4年前に心臓麻痺で倒れ、1か月の入院治療の後、1960年7月から1961年9月まで米国に休暇帰国している。再び福岡に帰任してからは、健康を取り戻し、西南学院の宗教部長や短期大学部長を務めた。

そして1963年には、Christian Evangelism : Its Principles and Techniques /『キリスト教伝道—その原理と技術』という実践神学のテキストともいべき著書を出版している。1963年と言えば、前年にバプテスト新生運動がはじまり、W.M.ギャロットが西南女学院の院長兼同短期大学学長に就任した年で、社会では翌1964年の東京オリンピックで徐々に盛り上がりを見せていました。米国に目を転じると、1963年8月に人種差別撤廃を求めるワシントン大行進が実施され、集まった約25万人の聴衆に対してキング牧師が有名な演説「I Have a Dream(私には夢がある)」を行った。また、11月にJ.F.ケネディ米国大統領が暗殺された激動の年だった。

◇レポートの内容

このレポートは、A4判、英文、30頁のタイプ打ちで簡易に製本されたものである。その内容は、まず、1854年にM.T.イエーツが宣教師として中国に渡って、到着後、すぐに日本伝道を連盟に進言したところから始まっており、その後の記述は、1963年まで1年ごとの記録である。



日本での宣教活動は、九州を中心に西日本地区を担うことや旧制中学の西南学院を創立し、その後、高等学部、専門学校、大学と発展していくこと、西南女学院も旧制中学部から創立されたことなど、宣教活動が活発になってきた状況が書かれている。

その中で、1932年は最も記述の文量が多く、満州事変の影響で中国の派遣宣教師が福岡に避難してきたことなど、徐々に国際情勢が緊迫してきたことなどが綴られている。そのような状況で、派遣宣教師の必要性やその資質が問われており、「日本においては、宣教師がまだ求められているか」という問い合わせに、日本のキリスト者たちは、「真剣に伝道の熱意に燃え、福音を正しく理解している宣教師は歓迎されるだろう」と答えている。

また、「宣教団は学院を設立した当時は、日本人3分の1、宣教団3分の2の割合で学校経営の理事となつたが、その後、宣教師の理事は半々から3分の1になつた。そして戦争直前には最終的に全員が日本人に変更された。」という記述がある。それ以後、国際情勢の悪化により徐々に宣教師の数が減り始め、1942年には、宣教師をはじめ外国人が日本を去り、敗戦を迎えるまでこの状況が変わらなかった。

◇米国南部バプテスト連盟との関係

戦禍から立ち上がるという空気が出てきた1947年には、「日本バプテスト連盟」が誕生し、ドージャーは副理事長に選出された。「南部バプテスト連盟がこの時期に、日本バプテスト連盟と密接につながっていることを誇りに思っている。(略)我々は、より幅広い伝道活動を行うことや地域の教会の自治が、温かく親密な協力の精神と共に拡大することを描くことができて、喜びを感じている。個人的な要求として、全ての人々が自由に神の御國の一員となり教会員となることができるよう、毎週日曜日に勧誘を行ってもらいたい。」とドージャーは喜びを語ったことが綴られている。その後も戦後復興の過程に続いて、宣教師や日本人の名前が非常に多く挙げられており、宣教団の発展の様子が伺われる。

また宣教団には、①連盟の活動を強化する上で宣教師はどのようにしたら最もよい働きができるか、②連盟及び連盟加盟教会の完全独立を推進し、福音伝道を躍進させるために財源はどのように運用されるべきか、という新しい課題が出てきた。そこで前述のとおり、宣教団は、1963年の日本バプテスト連盟理事会に対して同レポートを参考にして申し出を行った結果、「新年度の理事会で取り上げて研究方法を講じてもらう」との回答を得ることになった。

このレポートは、「我々が、連盟においてバランスを欠く上部組織を作っていないことは、効果的なことだ。(略)我々の歴史の中で何が正しかったのかということをもう一度考え直す必要性は、この会議に出席する全て人々の緊急の課題である。神のもとで成熟した人生を育むというキリストの精神を持とうではないか。」と、歴史を振り返ることで新しい方向を見出そうという呼びかけで締めくくられている。